

# Pyro2018 : 22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis 第 22 回分析のおよび応用熱分解に関する国際シンポジウム

## 1. 主 催

「第 22 回分析のおよび応用熱分解に関する国際シンポジウム」組織委員会

## 2. 共催・協賛・後援（予定・交渉中含む）

日本化学会	日本分析化学会
繊維学会	日本分析化学会高分子分析研究懇談会
日本油化学会	日本接着学会
石油学会	高分子学会
色材協会	日本ゴム学会
マテリアルライフ学会	合成樹脂工業協会
日本腐植物質学会	文化財保存修復学会
日本質量分析学会	クロマトグラフィー科学会
日本木材学会	日本エネルギー学会
廃棄物資源循環学会	プラスチックリサイクル化学研究会

## 3. 開催時期

平成 30 年(2018 年)6 月 3 日(日)～6 月 8 日(金)

## 4. 会 場

京都大学 吉田キャンパス（京都市左京区吉田本町）

## 5. 会議の性格と目的

本国際シンポジウムは、分析化学、資源・エネルギー学および材料科学などに代表される科学技術の領域で活用されている、分析のおよび応用的な熱分解手法（Analytical and Applied Pyrolysis）の到達点と将来に向けた発展方向を明らかにするために、1965 年にフランスで初めて開催され、その後近年はほぼ隔年で主に欧米の各地で開催されてきた。欧米以外で開催されるのは、1994 年に名古屋大学で開催されて以来、今回が 2 度目となる。

本シンポジウムでは、その学際的な性格を反映して、上記の諸分野はもとより、高分子化学、生化学、地質学、環境科学、法化学、さらには文化財保存科学にまで及ぶ広範な学術領域の参加者が、大学・公的機関・民間企業を問わず一堂に会して、学際的な議論・意見交換が繰り広げられる。これらの関連する諸分野では現実の問題が山積しており、それだけに、先進的な研究活動が国際的にも活発に繰り広げられている。我が国において、こうした時期に本シンポジウムを開催することは、学術交流・国際貢献の観点から大きな意義がある。

## 6. 会議計画の概要

### 1) 参加登録費

事前登録	一般 45,000 円	学生 25,000 円	同伴者 15,000 円
期限後（当日）登録	一般 60,000 円	学生 30,000 円	同伴者 20,000 円

(参加登録費にはレセプション・ディナー・昼食・ソーシャルイベント・要旨集等含む)

2) 重要日程

発表申込 (Abstract 提出) 期限	2018 年 2 月 1 日
発表受理通知	2018 年 2 月中
事前参加登録期限	2018 年 3 月 15 日
発表者参加登録期限	2018 年 3 月 30 日

3) 会議日程 (予定)

6 月 3 日: 登録、レセプション(夕方)  
6 月 4 日: 開会セレモニー、招待講演、一般講演、ポスター発表  
6 月 5 日: 招待講演、一般講演、ポスター発表、ソーシャルイベント  
6 月 6 日: 招待講演、一般講演、ポスター発表、  
6 月 7 日: 招待講演、一般講演、ポスター発表、ディナー  
6 月 8 日: 招待講演、一般講演、閉会セレモニー

4) 会議の主題

1. 新しい熱分解分析技術開発
2. 熱分解反応に関する基礎研究
3. 高分子材料の分析・キャラクタリゼーション
4. 法科学・裁判科学への応用
5. 資源循環およびエネルギー関連分野への応用
6. バイオ・生化学関連分野への応用
7. 土壌・腐植物質など地質学・地球科学分野への応用
8. 環境科学・地球保全分野への応用
9. 文化財保存修復分野への応用
10. その他

5) 参加予定者数

200 名(国内:150 名、国外:50 名)

6) 参加予定国(順不同)

日本、中国、台湾、韓国、アメリカ、カナダ、インド、ロシア、イタリア、ドイツ、フランス、ベルギー、スペイン、ポルトガル、オランダ、ポーランド、ハンガリー、英国、オーストリア、フィンランド、スウェーデン、南アフリカ、タイ、トルコ、エクアドルなど 30 カ国以上

7) 会議使用語

英語(同時通訳なし)

8) 会議内容の刊行

招待講演、一般講演およびポスターの発表の詳細な内容は、関連国際誌(Journal of

Analytical and Applied Pyrolysis)も投稿する論文形式にして、組織委員会に提出することになっており、これらの論文はすべて通常の査読を経て、上記国際誌の特別号に掲載される。

9) 組織委員会委員

組織委員長：大谷 肇 (名古屋工業大学)

事務局長：河本晴雄 (京都大学)

国内組織委員：飯國良規 (名古屋工業大学)、石田康行 (中部大学)、柿内俊文 (旭硝子)、北川慎也 (名古屋工業大学)、熊谷将吾 (東北大学)、佐藤信之 (東レリサーチセンター)、佐藤浩昭 (産業技術総合研究所)、島田治男 (資生堂)、佃由美子 (出光興産)、本多貴之 (明治大学)、南 英治 (京都大学)、渡辺亮太 (産業技術総合研究所)

Int. Sci. Committee : Anthony Dufour (France); Daniele Fabbri (Italy); Clemens Schwarzinger (Austria); Colin E. Snape (UK); Raymond Michels (France); Jose A. Gnnzales-Peres (Spain); Wolter Prins (Belgium); Bruce Sithole (South Africa); 刘国柱(中国); 王麗麗(中国); 吉岡敏明 (東北大学、日本); 宮腰哲雄 (明治大学、日本)

10) 問合せ先

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町  
名古屋工業大学  
大谷 肇

E-mail: pyro2018@nitech.ac.jp

Tel: 052-735-7911

Fax: 052-735-7911

Web サイト: <http://cec.ach.nitech.ac.jp/pyro2018/>